

樹木観察のポイント・樹木観察の工夫

10 学習者による命名

Point

- ・特徴を捉え命名してみる
- ・正式名称は後でよい



樹木の観察を行う際には、正式な樹種名（標準和名）とその特徴を教示し、そのうえで観察を行うことが一般的です。しかし、樹種名や特徴を教示せず、まずは個々の学習者が葉や枝、幹などを観察し、その特徴に基づいて命名するよう促すと、観察対象の樹木への興味関心が増すだけでなく、丁寧な観察によって樹木の特徴を的確につかむことができます。ブナの幹を触察した小学部 1 年生が”ツルボコちゃん”と命名した事例では、ブナに特徴的な平滑な樹皮と大きく波打った凹凸のある幹の形状が的確に観察、表現されました。正式な樹種名を教示するのは、学習者が樹木の特徴をとらえて表現した後でよいのです。

参考：大石康彦・井上真理子（2024）森林観察における学び—盲学校小学部1年生の夏休み観察会から—、日本視覚障害理科教育研究会会報 43：1-9。